

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター-自立支援事業所 2013年1月29日発行 第22号



JCIL緊急勉強会

生活保護削減

私たちの暮らしどないするん？



政府は1月27日、生活保護のうち食費などに充てる「生活扶助費」を、今年8月より3年間かけて段階的に削減することを決めました(詳しくは3面に)。自民党に政権が変わり、あつというに決まってしまったのです。私たち障害者の多くは生活保護によって生きています。生活保護は、何らかの事情でお金を得る「働き」ができない者たちが、生きていくための手段です。それを、こんなに簡単に切り下げられていいものでしょうか？また、このことは、のちのち介護現場に働く人たちのお給料となる報酬単価ひき下げへと繋がる恐れもあります。なんとしても阻止せねばなりません。しっかりと動きを見極め、自分たちの問題として考えていきましょう。

日時:2月7日(木)18:30-20:30

場所:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(京都市南区東九条東岩本町31 JR京都駅、京都市地下鉄九条駅、京阪「東福寺」から徒歩で各10分~15分
アクセス→ http://www016.upp.so-net.ne.jp/k_salon/access.html

講師:舟木浩さん 反貧困ネットワーク京都事務局長

参加費:無料

担当:渡邊



こころとからだをすっきり！ ヨガタイム

寒さで縮こまっているこの時期、ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに関わってくるか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪講師は石田久美さんです。

★ヨガ:全身をうごかすヨガ

日時:2月22日(金) 18:15-19:30
(OPEN18:00)

場所:油小路事務所2F

持ち物:動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費:無料

*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



居場所づくり企画 人生ゲーム大会！

平成25年新たな年を迎えました(ちょっと遅いけれど…)。
今年こそは、〇〇にチャレンジしたい！
今年こそは、〇〇をやりとげたい！
健康でいたい。今年こそは、恋がしたい！
…… などなど、考えますよね。

ここで、ちょっと楽しみながら自分の人生考えてみませんか？

人生ゲーム、スタートからゴールまで、自分たちで作ります。
さあ、この先どんな人生が待っているか？ 乞うご期待…

当日は、手作りぜんざいもご用意いたします。

日時:2月15日(金)14:00~

場所:日本自立生活センター事務所

参加費:無料

担当:斎木・福井



スキマタイムズに対するご意見ご感想をお待ちしています！居場所企画のアイデアも大募集中！！

日本自立生活センター-自立支援事業所 編集担当:横川

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp HP:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

職員の紹介

職員自己紹介

- ①なまえ
- ②JCILとの関わりはいつから？
- ③きっかけは？
- ④どんな仕事をしていますか？
- ⑤A:大切にしていること
B:これからしたいこと

- ①山内 眞美 (やまうち まみ)
- ②2010年の途中～
- ③ヨガタイムの講師石田さんの紹介で
- ④ファーストステップ(コミュニティサロン)・介助
最近コーディネートを始めました。
- ⑤A:あいさつ(感謝を伝える事)
B:心向くままに進む



- ①猪谷 摩生 (いのたに まお)
- ②2010年7月
- ③結婚を機に、次の仕事探して、共通の知人を介して、
事業所のS藤さんを紹介してもらった。
- ④介助・コーディネート
- ⑤A:知識に吸収。探求心。
B:全国酷(国)道巡り。子作り。

- ①有松 玲 (ありまつ りょう)
- ②何の集会だったか、JCIL主催の集会に顔を出した。
- ③集会によく顔を出していたら、
1年くらい前に誘っていただいたこと。
- ④障害者の自立の後押し
- ⑤一日一善



これまで9回に渡って28名の職員を紹介してきました。今後は新職員が入ったときに随時ご紹介していきます。これからもどうぞよろしくお願ひします！

第27回「国際障害者年」連続シンポジウム

共生社会の実現に向けて (仮)

- 今、共生社会の実現に向けて、障害者差別禁止法(仮)が制定されようとしています。その内容はいったいどのようなものになるのでしょうか。私たちとどんな関係のある法律となるのでしょうか。法案は3月ごろに提出される予定です。その重要な時期に法律の内容についてみんなで勉強しましょう。
- また、全国各地の自治体で、差別禁止に関連する条例づくりも活発化しています。京都府においても今年中に条例が制定される見込みです。地域ごとに応じた条例づくりの動きも、共生社会の実現に向けて欠かせません。その京都の動きも紹介します。
- さらに、最近ようやく、障害女性においてより深刻で複雑な差別が存在することが明らかになりつつあります。国においても京都府においても、障害女性への複合差別に対する取り組みが行われようとしています。そうした複合的な問題についての理解や取り組みも共生社会の実現へ向けには欠かせません。この問題に長年関わってこられた講師を招き、みんなで障害女性にたいしての複合差別について理解を深めましょう。

講師

加納 恵子さん

関西大学社会学部教授。2歳半でポリオに罹患。大阪府男女共同参画審議会委員、日本障害者リハビリテーション協会「ノーマリゼーション」編集同人 他。専門分野は、地域福祉論・コミュニティワーク論・ジェンダー論・障害学

米津 知子さん

1948年東京生まれ。2歳半でポリオに罹患し下肢障害がある。70年代のウーマンリブ運動に参加して優生保護法の問題を知り、以来、女の運動の中から取り組んでいる。「SOSHIRE N女(わたし)のからだから」のメンバー

他、ゲスト多数

3月16日(土)10時～16時半 京都テルサ東館3階B・C会議室

障害者差別禁止法・条例の動きと
障害女性への差別について



総合支援法に変わるよ！ えっ、ほんま？ Part 18

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



1月10日京都テルサでの集会、すごい人やったな～

テルサのホールはまんばいで、第2会場もまんばい。人があふれてたわ～ 政府にもみんなの気持ちが伝わったらしいなあ。

うん。それって、生活保護基準の引き下げのことやろ。ニュースでいっていた。うちら、かなりぎりぎり生活しているのに、ほんまに困る。

だいたいどんくらい引き下げられるんやろう？

ひどいわあ！生活保護世帯以外にも影響が及ぶって聞いているよ。

ええ～。ヘルパーさんたちの中にはそのくらいの収入の人も多いんちゃうの？

うわ～。これは困った。生活保護世帯や低所得世帯だけの問題ではなく、みんなの問題なんやね。

困ったね～。こんなときこそ、うちらとしても、ちゃんと声をあげていかないとね。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?)解説



うん。1200人も集まったらしい。すごい熱気だったね。

そやねー。でも、自民政権になって、かなり雲行きがあやしい。社会保障全体の適正化(=切り下げ)の動きが加速してる。

ほんとにそうだね。生活保護制度は、多くの自立障害者の生活の基盤となっているのに、それが今、切り崩されようとしている。

今年の8月から3年かけて、全体で7.3%の削減。世帯ごとに違うけど、最大で月2万円引き下げられる世帯もあるよ(夫婦40代で、小、中の子ども二人世帯)。

うん。低所得世帯向けの住民税の免除基準とか就学援助の基準とかも下がるからね。年収200万～300万の世帯に限って負担増になる可能性がある。

そうやね。それから、最低賃金や介護報酬も上がりにくくなると思うよ。国の定める最低生活基準が下がるわけだから。だるま落としの、一番下の段がスコッと叩かれ、だるま全体が沈む感じ。

うん。社会保障全体の切り詰めが進むので、障害者だけでなく、高齢者や子ども、女性、そして働く人々、ほとんどの人の生活基盤がゆらいで、生きにくくなるかもしれない。

そうやね。障害者の生きやすい社会は、だれにとっても生きやすい社会だよ！

2012年12月8日、被災地支援活動の一環として、被災地障がい者センターみやぎ、被災地障がい者センター石巻とともに、まちづくりと交通バリアフリーをテーマにしたシンポジウムを行いました。

今回のシンポジウムは単に講師を派遣するだけでなく、企画段階から地元のメンバーと相談し、インターネットのテレビ電話なども使いながら協力を準備をすすめました。

12月7日、JCILのメンバーは昼過ぎに仙台に着き、印刷・看板作りなどの準備と街頭宣伝、打ち合わせを行いました。街頭宣伝では、「街づくり



に当事者の声を！」などのプラカードをつけて、チラシを配ってアピールしました。打ち合わせの直前に、震度4の地震があり、沿岸部には津波警報が発令されました。街の人たちは落ち着いていましたが、沿岸部の家族と連絡がつかなかったり、他の地域の状況がすぐにはわからなかったりして、いまま日々の生活のなかに不安や心配があるということを感じさせられました。



翌12月8日、仙台市シルバーセンターでシンポジウムを行いました。参加者は約40名。会場は少し寂しかったですが、白熱した議論が展開されました。

基調講演は、DPI 交通問題委員の今福義明さんによる「私たちの復興はバリアフリーだ！」です。当事者の闘いによって、2000年の交通バリアフリー法、06年のバリアフリー新法を勝ち取りましたが、車両・旅客施設のバリアフリー化は遅々として進まず、バリアフリーを謳いながらできあがった設備がお粗末なものであることについて、具体的な鉄道車両の画像を紹介しながら話を進められました。



講演に続いて、各地からの報告がありました。石巻の石森さんからは、今回のサブタイトルにもなっている JR 仙石線蛇田駅の問題について。被災地障がい者センター石巻は、蛇田駅の近くにありますが、8段の段差があるため、電動車いすでは利用することができません。ひとつ先の駅で降りて、20分くらいかけて事務所まで行く必要があります。週一度蛇田駅を利用する際は、手動車いすに乗り換え、ヘルパーに支えてもらいながら階段を上り下りしているとのことでした。

次に仙台のCIL たすけっとの杉山さんが JR の仙台駅で電動スクーター（ハンドル型車いす）の方が乗車拒否にあった事例の報告をされました。物理的には乗車可能にもかかわらず、電動スクーターにはステッカーの貼り付けが義務づけられているため、CIL たすけっとは JR に抗議をし、許可ステッカー義務づけの撤回を求めています。

最後に JCIL からは、08年から取り組んでいる地下鉄ホーム柵設置運動と帝産バスの乗車拒否問題の報告をしました。

その後は、パネラーのやり取りと会場からの意見交換。長年運動を続けていくモチベーションの維持、これまでの運動をどう継承させていくのか、蛇田駅のバリアフリー化に向けた具体的な行動、などが話し合われました。山形から来られた方、地元仙台の方など、会場からもたくさんの発言がありました。

最後の挨拶で石森さんが「自分の愚痴のようなことを真剣に取り上げて、みんなの問題にしてもらったことが大きな自信になった。これからも、自分一人でも電動車いすで石巻の街に出ていきたい。」と述べ、これからつながるシンポジウムになったと思います。



JCIL のメンバーは、翌日石森さんたちに石巻を案内してもらい、蛇田駅を訪れました。また、津波の被害を受けた地域も案内してもらいました。建物は流され、今は雪に覆われた更地のように広がっています。被災地の生活はまだ大変です。京都にいるとなかなか見えない現実の姿を、少しだけ感じてきました。

被災地の復興への道はこれからも長く続きます。今回できたつながりを大切に、これからも一緒に、誰にとっても暮らしやすい街をつくっていく活動をしていけたらいいと思います。（横川ひかり）

☆シンポジウムの詳しい報告は機関誌『自由人 73号』にも掲載されます。『自由人』については JCIL の内藤・金まで (075-671-8484)。